

事務所ニュース

労働保険事務組合
第一労務協会

京都市西京区嵐山宮ノ北町8番18
TEL. (075) 864-3336
FAX. (075) 864-3367
〒616-0025

社会保険労務士 光木事務所

スポット

増加する新入社員の早期離職 精神的支援が不可欠

4月は新入社員の研修の時期です。ただし些細な出来事をきっかけに退職に走る人も少なくなく、早期離職をいかに防止するかが企業の課題になっています。

大手退職代行会社によると、4月1日以降に退職代行の依頼が一挙に増えるそうです。担当者は「2024年4月に1400件、5月に1800件の依頼があったが、そのうち新卒の人が14%を占め、全体でも入社6カ月未満の依頼が6割を占める」と言います。中には「会社説明会で聞いていた会社の雰囲気が違うので辞めたい」という依頼もあるそうです。その意味では新人のサポート体制が重要です。入社後は導入研修が始まり、研修

終了後は配属先でのOJTが始まるのが一般的です。OJTでは先輩社員が指導役となり、仕事や職場の悩みなどの相談を引き受けることになっていますが、忙しい職場ではOJTが機能していないところもあります。

ラーニングイノベーション総合研究所の「若手社員1200名の意識調査（精神支援編）」（2025年1月7日）では、「上司や先輩からの精神面における支援が十分と感じているか」を聞いています。社会人1年目の社員の場合、「十分にしてもらっている」「してもらっている」と答えた人は57・0%でしたが、一方「まったくしてもらっていない」と回答した人が25・3%もいました。

た。4人の1人の割合であり、極めて多いといえます。

上司や先輩としては支援しているつもりでもそのように感じていない新人も多いのかもしれませんが、精神的な支援をまったくしてもらっていないと感じていれば、退職の引き金になる可能性も十分にあります。

精神的サポートでは社会人1年目の社員は「励ましや応援をしてくれた」「安心して伝えてくれた」「成長していることを伝えてくれた」ことに感謝の気持ちを抱いたと答えています。サポートのタイミングを外すとなく、きめ細かい支援が重要でしょう。

2025

5

第17回 中高年社員のリスキリングを積極的に支援

高齢者雇用に どう向き合うか

戦力化と 生産性向上を目指して

人手不足解消の方策の一つとして高齢者雇用が注目されています。大事な戦力として活躍を促すには中高年層からのリスキリング(学び直し)も必要です。今回は中高年社員のリスキリングを積極的に支援している大手飲料メーカーA社の事例を紹介します。

とスキルセットの獲得を支援する
目的で設立されました。人事担当

学べる多彩な講座を用意 研修と面談で意欲を喚起

社員に長く働き続けてもらうにはリスキリング(学び直し)の支援も重要な課題になっています。A社は企業内大学を開校。経営課題を意識した「グローバル学部」、「デジタル学部」、「1000年キャリア学部」の3つがあり、学部内の多様な講座を社員の誰もが自由に選んで受講できます。とりわけ注目を引くのが中高年の学び直しです。

2023年からは50歳以上の社員必須の生成AIの研修も実施しています。学部の1つである「1000年キャリア学部」は40代以上をターゲットに自らのキャリアをデザインするマインドセット

学部の講座はキャリア自律などのマインドセットの講座に始まり、資格取得などのスキル学習のほか、業務外で社外のNPO法人業務に携わる「越境学習」、地方自治体にミドル・シニア社員を向させる「地方創生人材制度」の紹介など多彩なコンテンツを揃えています。もちろんデジタル学部など専門的知識も自由に学ぶことができます。ただし、どれだけ豊富なメニューを揃えても目の前の

者は「人生1000年時代になれば80歳ぐらいまで働く人が増え、キャリアや職業人生も長くなる。当社は65歳定年だが、ここで終わりではなく、その先を含めて自分のキャリアをデザインし、必要なスキルを学んだり、アップデートしていくことが求められる。それを支援するのが目的」と語ります。

43歳のキャリアワークショップ

プは、今までの自分のキャリアを振り返る外部講師によるマインドセットのセミナーを受講。その後、自社のキャリアコンサルタントによる1対1の面談を通じて後半の人生をどのように歩んでいくか、そのために何を学ぶ必要があるのかを考えます。その際に1000年キャリア学部の講座を紹介し、学習したい講座を選んでもらうなど背中を押すことで学びに誘導する仕組みになっています。

企業としてのメリットについて人事担当者は「若いときは昇進をめざして先に進みたいという思いもあるが、40代半ばになると、この先何をめざすべきなのかわからず、仕事に対するモチベーションが下がることもある。自分と向き合い、やりたいことを見つけて社員一人ひとりが進化していくことは会社にとっても大事なことです。定年後も含めて生き生きと働きたいという社員がいることは会社にとってもプラスになるはずだ」と言います。